

No.67 青木 野絵 —無題—

Noe Aoki

北川フラムさんのコラム / 1997 (平成9) 年 9月15日付 立川市市報記事より

私たちが普通、かたいと思っている鉄という材料を、青木野枝はきわめて柔らかいものとして扱ってしまう。鉄の持つ属性という性質を使って自由自在に作品をつくる。この換気口の覆いですら、光にきらめく天体の物質に見えてくる。彼女はそんな思いを、次のように述べている。

「～（その氷は）最後にはきっと、うすいうすい、刃のような一枚になって、そして無くなってしまおうのだろうと想像する。この世界には、こんなに魅力的に輝く物体があったのだ。私は、輝く氷をつくりたい」